

# 大野で生きる 大野に生きる

～大野づくり計画～



平成 23 年 3 月

初 版

大野地区公民館

# 「大野で生きる 大野に生きる ～大野づくり計画～」

## もくじ

1	この計画の位置づけ	1
2	わたしたちはすすめます	2
3	大野地区はいま	
	(1) 大野地区の歴史	3
	(2) 大野地区の人口の推移	4
4	わたしたちのねがい・夢（10年後のありたい姿）	5
5	整理・選択された項目の行動計画（いつ、どのように動く？）	6～15
6	振り返り（実践・見直し）	16
○	参考資料	
	・第4次垂水市総合計画抜すい	17
	・大野づくり計画策定のための高齢者座談会（平成21年）	18
	・新聞各紙で紹介された大野地区の取り組み（平成22年分）	19～27
	・「 <small>うのぼい</small> 大野原いきいき祭り（平成22年）」開催チラシ	28
	・通信「大野のいま」第1号～第7号	29～42
	・話し合いで出し合った意見・要望一覧	43～46
○	「大野づくり計画」策定員名簿	47
○	策定経過	48
○	あとがき	48

# 1 この計画の位置づけ

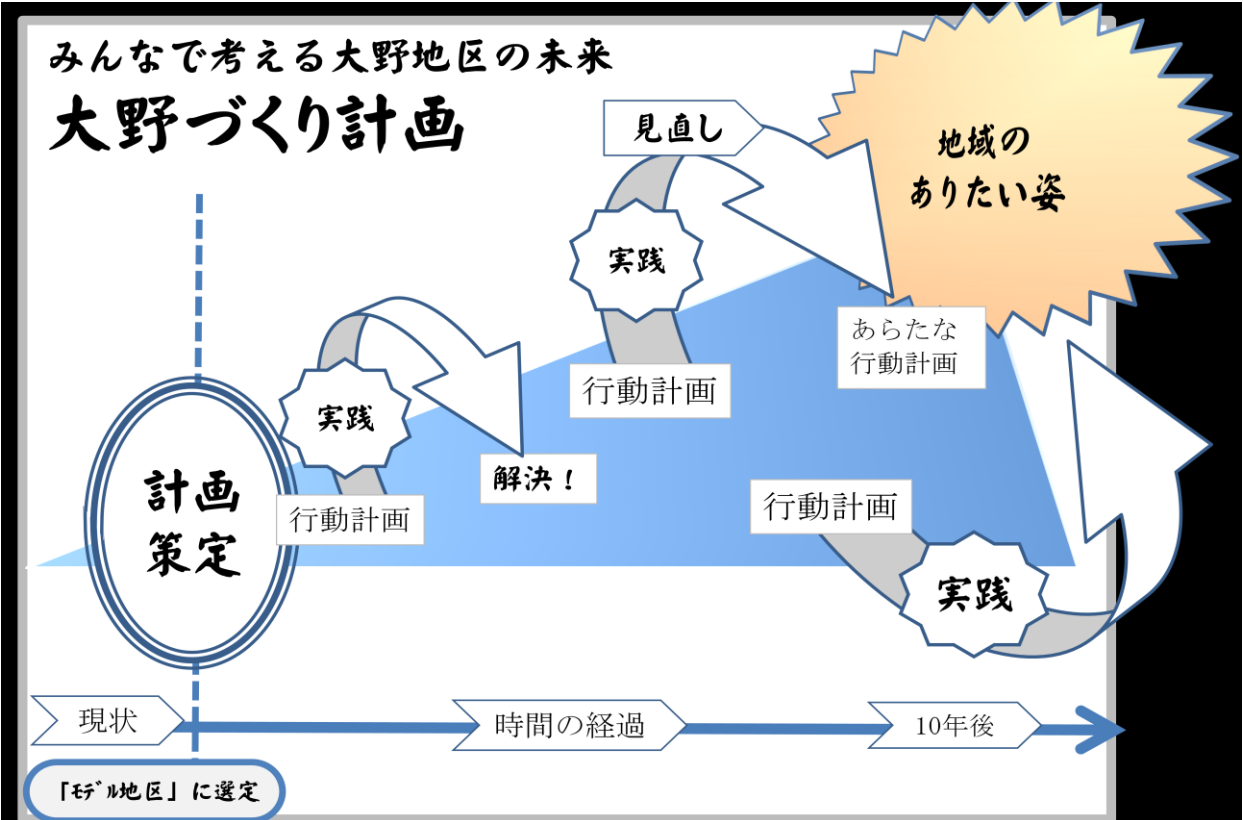
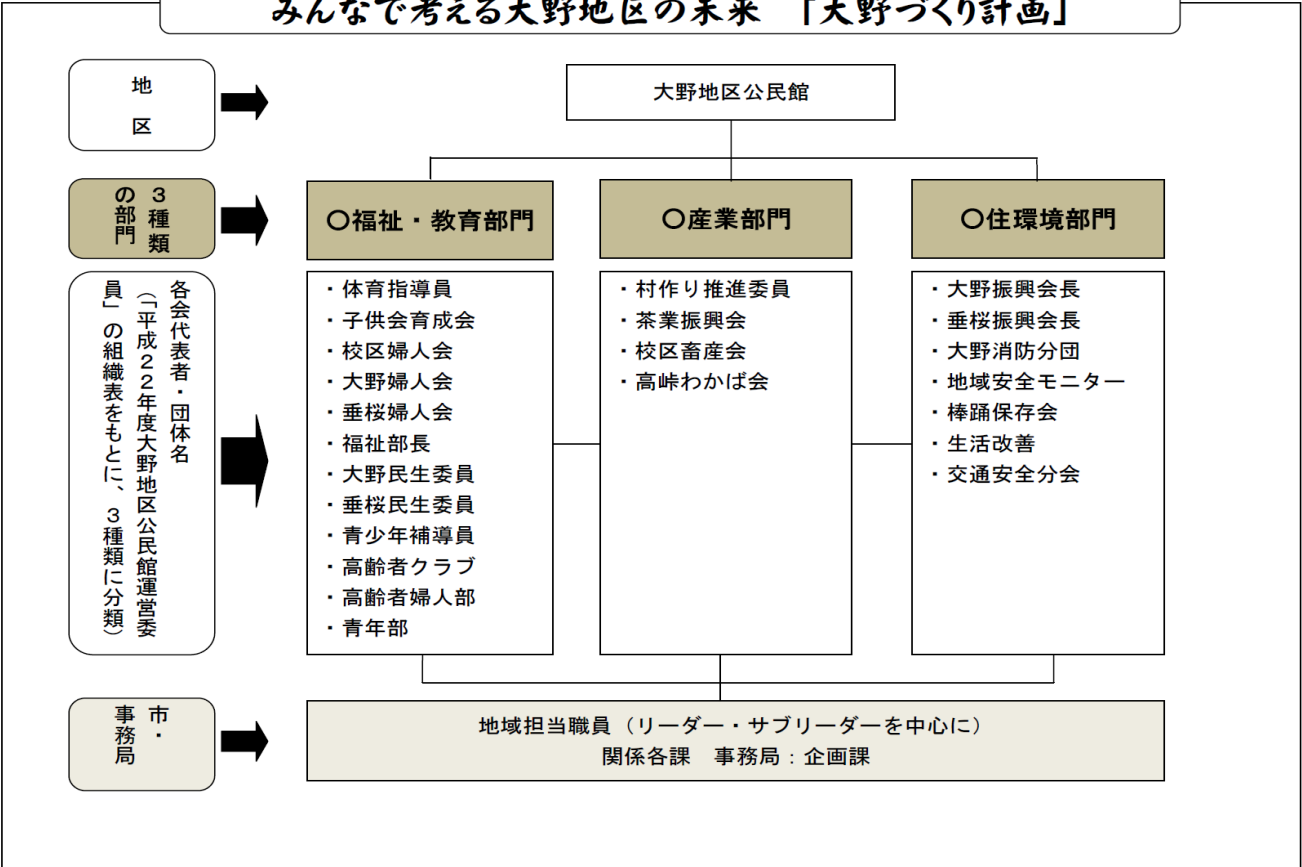
- ・この計画は、地区内で意見や要望、「10年後のありたい姿」を出し合い、地区のわたしたちが話し合いをしながら作りました。
- ・102の意見や要望（P43～46）を協議のうえ28項目に整理し、それぞれの項目について、わたしたちが考えた「ありたい姿」を実現するために「だれが」、「いつ（どのように）」、「何をする」かを、具体的な行動計画としてまとめました（P6～15）。
- ・この計画の期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間ですが、期間中に計画の見直しができるものとします。
- ・わたしたちは、計画の期間中にやっていることを確認し、計画がうまく進んでいるかどうか、どうすればより良くなるか、話し合います（P16）。
- ・この計画は、第4次垂水市総合計画の基本構想にもとづく「地域振興計画」の大野地区版（P17）で、わたしたちが作り上げた「大野づくり計画」です。わたしたちが行政と協働ですすめます。



▲平成22年度「ふれあいスポーツ大会」平成22年9月20日（月）

# 2 わたしたちはすすめます

## みんなで考える大野地区の未来 「大野づくり計画」





### 3 大野地区はいま

#### (1) 大野地区の歴史

大野地区の歴史は、大正3年1月の桜島大噴火に始まります。家を失い、田畑を失った住民たちを救済すべく計画されたのが、遠くは朝鮮半島にまで及ぶ集団移住でした。集団移住先の1つが大野原であり、入植と同時に小学校も作られました。大正4年のことです。当初は84戸が入植しましたが、ほぼ手つかずの原野開拓は苦難の連続で、数年で大野原を離れた人も多かったと伝えられています。その後、本城や水之上からの入植も行われ、昭和の初めには、73戸が残っていました。

戦後、昭和の桜島大噴火の被災民、そして大陸からの引揚者など、新たな開拓農家が大野に入植し、昭和21年に垂桜、高峠の両集落が、昭和24年に駒ヶ丘集落ができました。これによって、大野地区は、大野原、垂桜、高峠、演習林、駒ヶ丘に広がったのです。主な産業としては、製炭業などの林業、畜産業、茶業をはじめとして、さつまいもやにんじんなど根菜類の生産も盛んな地区となりました。

しかし平成に入り、大野地区に少子高齢化の波が襲います。平成18年に大野小中学校が閉校し、平成22年には高峠振興会が解散となりました。

けれど明るい兆しもあります。平成22年には有志が集い、大野地区



▲大にぎわいだった「大野原いきいき祭り」平成22年12月12日(日)

青年部が結成されました。初めて企画した大野物産展「大野原（うのばい）いきいき祭り」は、新聞等にも大きく採り上げられ大盛況でした。

開拓の歴史をひも解くと、それぞれの出身地も、入植時期も、入植理由も異なり、また苦勞の絶えない開拓生活でしたが、住人総出で小学校を切り拓き、地域の心のよりどころとして大羽重神社を創建し、道を造り、水道を引き、地域をそして生活を自らの手で切り開いてきました。このように共助の心を大切にする集落の営みは大野の伝統であり財産です。そしてそれは、現在に脈々と受け継がれているのです。

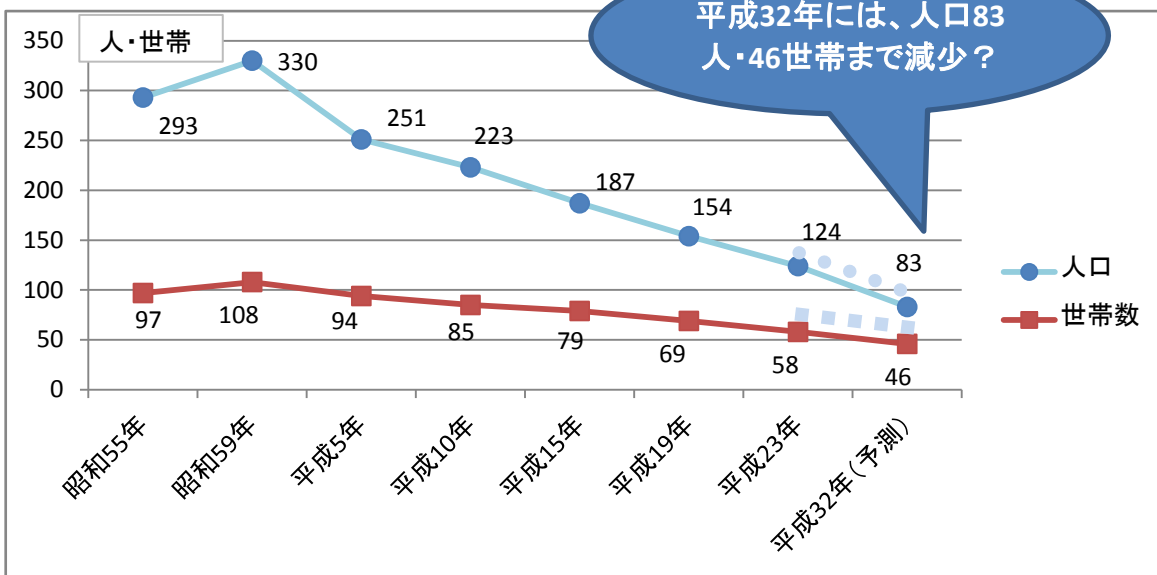
#### 【参考資料】

『垂水市史（上・下）』

『閉校記念誌 大野』

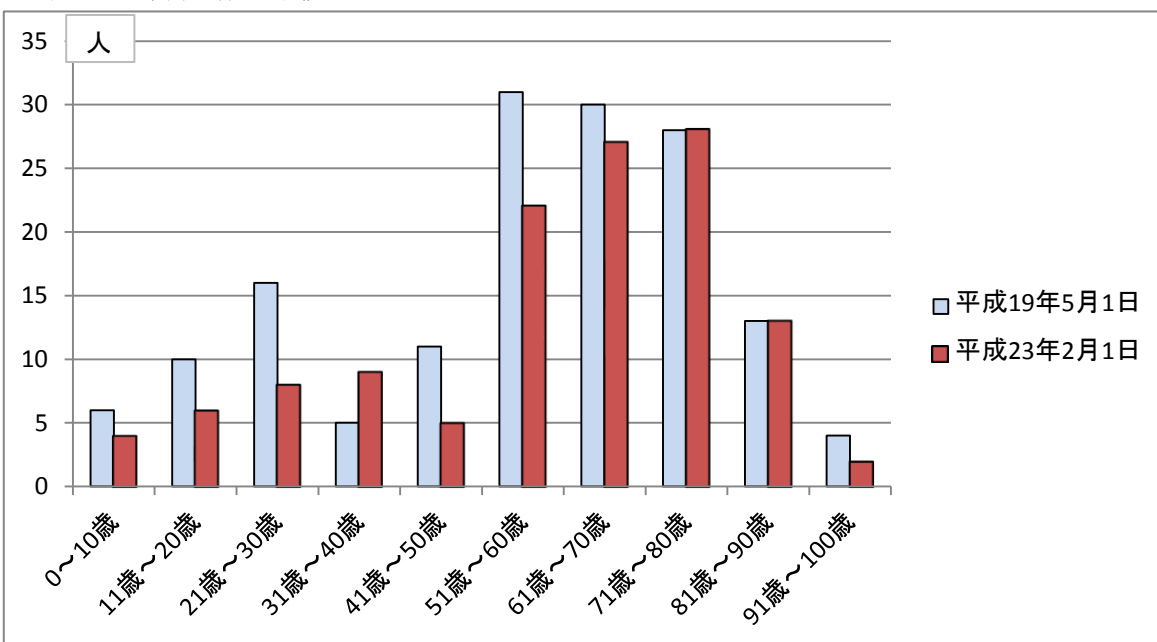
## (2) 大野地区の人口の推移

大野地区の人口と世帯数の推移



資料:住民基本台帳

大野地区の年齢構成の推移



資料:住民基本台帳

大野地区の人口の推移をみると、人口・世帯数ともに年々減少していることがわかります。

このままの人口減少が続けば、平成32年には人口83人・46世帯まで減少することが予測されます。

(平成10年から平成20年の減少率をもとに、平成22年の人口・世帯数から算出)

また、平成19年と平成23年の大野地区の年齢構成を比較してみると、平成19年には51歳から60歳の年齢層が一番多かったのに対し、平成23年では71歳～80歳の年齢層が一番多くなっていることがわかります。

## 4 わたしたちのねがい・夢 (10年後のありたい姿)

わたしたちの高峠公園、垂桜の景観資源を生かす (P8)

ずっと安心  
高齢者にやさしい  
地域づくり (P6)

☆ よりよい生活環境のために (P12~)

わたしたちが売る！ (P10)

生産者も変わる (P10)

**一番のねがい**  
**「わたしたちは大野の人をふやしたい」**  
**(住む人・来る人)**

来た人が喜ぶ体験づくり (P10)

加工の取り組みも  
あらたな次の段階へ (P10)

空き家などの有効活用、人を呼ぶ取り組み (P14)

☆ 公民館、地区公民館、自然学校と、地域との結びつき (P6~)



▲ 豊年祭での棒踊奉納 平成22年11月3日(水)



5 整理・選択された項目の行動計画(いつ、どのように動く?)

わたしたちは大野の人をふやしたい(住む人・来る人)

わたしたちは大野の人をふやしたい(住む人・来る人)

「ありがたい姿」や ねがい	意見・要望 一覧より (P43~ 46)	優先 度	「こうありたい」ための行動	だれが動 くか ※複数記 載あり	市役所 関係課	「こうありたい」のため、いつ、どのように動く?			市役所関係課長 の回答・見解
						前期(1~3年目)	中期(4~6年目)	後期(7~10年目)	
〔分野ごとにまと めて言い表 します。〕	—	優先度 高は、 ☆印	〔出されたすべての意見を精査し、整理・ 選択された項目を掲載〕	地域 市 県、国		〔「行動」からひろがる「大野づくり」になるように、 ムリなくできることを、なるべく具体的に書きます。 計画に対して、行政は応援します。〕			以下の回答・見 解については、平 成23年1月21日 (金)及び1月28日 (金)に開催された、 市関係課長同席の 話し合いの場での 発言をもとに作成し ています。
ずっと安心 高齢者にやさしい 地域づくり	1・ 大野原総会		高齢者の安否確認(毎日旗をあげて目印 に)	地域		「毎日旗上げをする」 道路から見えるよう目印 近所となりだけで? ※方法は再協議			
	2		高齢者の病院、買い物などの乗り物(交 通対策)	市	企画課	乗合タクシーの第2便の帰り の時間を1時間遅くする			・運行変更のために協議 会へ提案を行う
	3・4・5・ 大野原総会		高齢者向けの何か娯楽があったらいい 高齢者クラブがボランティアで作付した野菜 を必要などころにふるまい大野の野菜として PR 高齢者が日中過ごせるような場所をつくる	地域 市	保健福祉課 社会教育課	グランドゴルフとカラオケ  バス送迎 遊具類の提供 講師派遣	→	→	・計画を立てて要請を ・遊具類は貸し出し可能
公民館、地区公民 館、自然学校と、 地域との結びつき	6・ 大野原総会		地区公民館の補修(塗り替え・軒下・軒天な ど)	市	社会教育課	部屋のフローリング補修 軒下・軒天の修繕 外壁落下修繕 台所排水改善			・市内の9地区公民館が一 斉に傷んでいる状況 ・状況を実際に見る ・あらためて見積書を取っ て要望されたい
	7・ 垂桜総会	☆	公民館を開放して健康教室、お菓子作り、 夕食づくりができるようにしたい 垂桜公民館の倉庫を新築	地域 市	社会教育課 保健福祉課	垂桜振興会では今年からい きいきサロンを実施中  財政支援 指導者派遣			・公民館改修は40%補助、 上限36万円 ・計画を立てて要請を
	11・12 14・16		自然学校と地域との連携をもっと密に	地域 市	社会教育課	畑の貸与 運営に協力する  継続して運営していく	→	→	・地区公民館の年間計画 とすり合わせる必要



わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

「ありたい姿」やねがい	意見・要望 一覧より (P43~46)	優先度	「こうありたい」ための行動	だれが動くか ※複数記載あり	市役所関係課	「こうありたい」のため、いつ、どのように動く？			市役所関係課長の回答・見解
						前期（1～3年目）	中期（4～6年目）	後期（7～10年目）	
公民館、地区公民館、自然学校と、地域との結びつき	17～19		郷土芸能の振興	地域		大野で市内棒踊の発表・競演会を行う 保存会指導者、後継者の育成	「指南書」作成、DVDに残す、歌うたいの指導		・市内の棒踊それぞれに特徴がある ・提案があれば課として全面的に協力する ・記録に残すことは課の課題でもある
				市	社会教育課	棒踊競演行事の実施 他地区への波及			
	追加		「大野原いきいき祭り」の開催	地域		地元農産物の販売と地域活性化、大野のPR			・支援、協力を続けていく
				市	社会教育課	支援、PR等			
追加		「ふれあいスポーツ大会」の開催	地域		地域住民の親睦を図る			・計画されれば、あるものは貸し出す	
			市	社会教育課	競技用具類の提供				
追加		「夏祭り」、「豊年祭」の開催	地域		地域の親睦 棒踊の奉納、豊作祈願				
わたしたちの高峯公園、垂桜の景観資源を生かす	22～30 33・36 大野原総会		高峯公園(頂上付近も含む)の整備・管理 ・コスモス復活 ・つつじ ・紅葉樹植栽 ・グランドゴルフ場整備 ・カブトムシを呼ぶ樹 等	地域		今年からコスモスの植え付けと管理を実施する 市から畑を借りる H23は1反	クヌギ類の植え付けに協力		・コスモスのための畑の貸し出しは、管理できる面積に応じて可能、市も協力していく ・つつじ管理(カズラ切り実施等)についてさらに研究する ・グランドゴルフは今でも会場として使える状態ではある
				市	商工観光課	コスモス植え付けのための畑を貸す グランドゴルフ場の建設に向けて運営方法を検討する	カブトムシを呼ぶ樹(クヌギ等)地域と協働で植え付け		
	31・32 垂桜総会		垂桜は山桜の名所になる、新たな憩いの場の創作を 埋れた観光資源を有効に活かし、景観の良いところをアピール 紅葉樹を生かして散策できる公園と、駐車場の整備 ニッセイの森など散策ルートづくり	地域			ボランティアで案内を行う 名所に作り上げるために、 国やニッセイに駐車場整備を働きかける 看板設置を要望する 管理者に人を呼べる公園化に対する許可を得る		・現場を見た上で、今後の対応を検討
市				商工観光課			管理者に整備、公園化を働きかける		
35 垂桜総会		高隈登山や周辺のトレッキング体験 看板設置の要望／登山口までの道標、登山口、垂桜から垂水への分岐点 ローマ字の看板	地域				市内愛好家に呼びかけて、地元案内人を養成する 休憩場の提供		・H22県道沿いに2箇所の看板を設置予定 ・県がH22以降、遊歩道の整備に入っている ・今ある看板を改良していく
市	商工観光課			看板を設置する 管理者(九州自然歩道)に働きかける					

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

「ありがたい」やねがい	意見・要望 一覧より (P43~46)	優先度	「こうありたい」ための行動	だれが動くか ※複数記載あり	市役所関係課	「こうありたい」のため、いつ、どのように動く？			市役所関係課長の回答・見解
						前期（1～3年目）	中期（4～6年目）	後期（7～10年目）	
生産者も変わる	37～40		茶の新たな商品開発	地域			三者で加工商品の開発	→	・協力できる部分について県に要望を行う
				市	農林課		三者で加工商品の開発	→	
				県			三者で加工商品の開発	→	
	41		法人化・団体化など経営の見直し	地域		法人化に向けて協議検討を進める	→	・要望に応じ打ち合わせ等を行う	
市	農林課 農業委員会	法人化・団体化を支援する	→						
わたしたちが売る！	42～50		大野野菜のブランド化と販路拡大 ・インターネット販売 ・特産品の予約販売 ・物産館をつくる ・軽トラ市	地域		道の駅たるみずや南中跡地に計画されている物産館に大野の品を売る専用コーナーを設置	→	・物産館等の計画が具体化したときには地区に情報を入れる	
				市	農林課	宣伝、場所の提供	→		
	垂桜総会			降灰対策のためビニールハウス導入	地域		グループ化事業導入		・県と協議を行う(第13次防)
					市	農林課	品目(軟弱野菜)導入の要請		
					県		品目(軟弱野菜)導入への対応		
来た人が喜ぶ体験づくり	51～59		農林業自然体験 ・自然学校との連携 ・農業体験	地域		畑、山林の提供	→	・農林業体験実施にあたっては、危険のないように実施	
				市	農林課 社会教育課	体験メニュー発信 自然学校を運営しながら地域と連携して取り組みを受け入れる	→		
加工の取り組みも新たな次の段階へ	62・66		地元農産物加工技術の向上、商品開発 大野に出前講座をまねいて商品開発につなげる	地域		さつまいも、にんじんを使った商品開発 大野らしい商品をつくる	→	・具体的な要望に対し、補助事業等の情報を提供	
				市	農林課	商品開発への協力 補助事業の紹介	→		
				県		県農産物加工研究指導センターが指導協力	→		

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

「ありがたい」や ねがい	意見・要望 一覧より (P43～ 46)	優先 度	「こうありたい」ための行動	だれが動 くか ※複数記 載あり	市役所 関係課	「こうありたい」のため、いつ、どのように動く？			市役所関係課長 の回答・見解	
						前期（1～3年目）	中期（4～6年目）	後期（7～10年目）		
よりよい生活環境 のために	68・69・ 大野原総会	☆	水道施設、水道管の整備・改修 大野原急速ろ過器のろ過砂更新	地域		大野原ろ過剤の更新 補助率引き上げを要請	ボーリングによる新たな水 源を確保	→	・補助率については現行ど おり(生活環境課) ・H23年度、自然学校の水 道使用料を予算化してい る(社会教育課)	
				市	生活環境課	財政支援		→		
	70・72・73・ 75・ 垂桜総会		市道・農道の整備 ・学校先のカーブが見通し悪い ・大野原～垂桜連絡道拡張 ・大野原水源池までの舗装 ・田地明～垂桜集落への市道 ・農道(茶園周辺3本) ・肝属茶業振興大会	地域		カーブ改良を早急に要望 労力提供		→	・「カーブ」改良は該当地が 公有地であれば実現可能 性あり ・市道については計画的に 実施中 ・農道整備は「中山間総合 整備事業」の実施が不透 明(「事業仕分け」の影響)	
				市	土木課 農林課	資材の提供、道路改良		→		
				地域		要望活動		→	・地区からも絶えず要望活 動を続けられたい	
		大野原総会		県道(中尾橋～田地明区間)の拡幅の早期 実現	市	土木課	要望活動の支援 財政負担		→	
					県		拡幅工事の計画的実施		→	
	71		猿ヶ城から垂桜へ通ずる連絡道(国有林 内)の整備	地域		要望活動		→	・国(森林管理署)がどの ような計画を持っているの か調査する	
				市	農林課 土木課	要望活動		→		
	76・77		消防施設の整備	市	消防本部	垂桜は消火栓の改修を検討 大野原は消火栓の設置、防 火水槽の改修を検討		→	・現在のところ、消火栓の 改修の予定はない ・大野原消火栓は、ボーリ ング計画時の検討事項 ・大野原防火水槽の改修 は計画あり	
	79・80・ 垂桜総会		集落内環境整備への支援 ・垂桜公民館上の運動場の管理方法を改 善	地域		奉仕作業の計画的な実施		→	・計画を立てて要請を ・運動場管理支援方法を 検討	
				市	土木課 農林課	重機等の提供 環境整備班の支援		→		

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

「ありがたい」や ねがい	意見・要望 一覧より (P43～ 46)	優先 度	「こうありたい」ための行動	だれが動 くか ※複数記 載あり	市役所 関係課	「こうありたい」のため、いつ、どのように動く？			市役所関係課長 の回答・見解
						前期（1～3年目）	中期（4～6年目）	後期（7～10年目）	
よりよい生活環境 のために	81・82・ 86・87	☆	人を呼び込むための住宅整備 ・市営住宅を含む、若い人が住める住宅 の整備 ・短期利用、夏の別荘	地域		入居者を探す	→		・新たに建てなければなら ない状況ではない ・まずは空き家活用を検討 されたい
				市	土木課	市営住宅の新築 家賃面にメリットを付加する	→		
	83～85・ 大野原総会		臭気対策	地域		具体的に取りまとめた要望 書を企業に提出する 情報開示、年1回の場内視 察を求める	→		・地域と市で事前の具体協 議が必要
				市	生活環境課	地域と企業との対話を仲介 する	→		
空き家などの有効 活用、人を呼び取 り組み	88～92		空き家の活用 ・市「空き家バンク制度」	地域		登録物件の掘り起こし	→		・登録可能な空き家の情 報提供を
				市	企画課	空き家バンク制度で発信	→		



## 6 振り返り(実践・見直し)

- ・継続性のある計画であるために、わたしたちは毎年みんなで行動を確認しましょう。
- ・一度に計画の全部はできませんが、確認シートでひとつひとつの項目がうまく進んでいるかどうか、うまく進んでいなければどうすれば良いか話し合しましょう。
- ・行政には確認の結果を報告します。
- ・新たな課題が生まれてきたときは書き加え、計画書の見直しにつなげます。

### 確認シート様式

振り返りの年度：平成●年度（●年目）

確認日：平成●年●月●日

意見・要望一覧 番号	「こうありたい」ための行動	取り組み状況（凡例参照）	取組の状況やあらたな課題（自由に記載）
1・大野原	高齢者の安否確認		
2	高齢者の病院・買い物 のときの乗り物		
3・4・ 5・大野原	高齢者娯楽 地区公民館の補修		
6・大野原	地区公民館の補修		
7・垂桜 (☆)	垂桜公民館の倉庫の新 築		
...			
			（新たに加わった行動計画があれば記載）

#### 凡 例

- ◎：達成した・解決した・改善した
- ：一定の達成・一定の改善（達成途上）
- △：取り組んだがうまく進まず、翌年度に継続するようにした
- ×：取り組まなかった

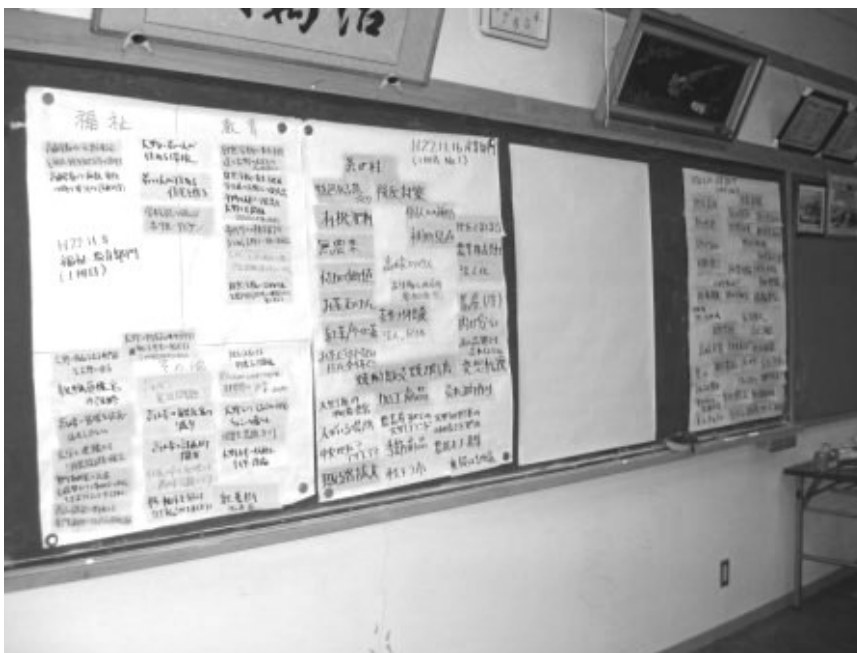
## 参考資料

第4次垂水市総合計画基本構想（P23）より全文

第4章「地域づくりの考え方」第2節「地域振興計画」

地域拠点地区においては、それぞれに文化や歴史、社会資源があります。それらを反映した地域の特性をそこに住む住民が理解し、地域の将来をみんなで考えていく必要があります。また、それぞれの拠点地域にある特性の理解を深めることによって、拠点地域間の連携が生まれ、相乗効果による活性化が期待できます。

このため、地域拠点地区において、地域づくりの考え方や地域の将来像を盛り込んだ地域振興計画を定めて、地域の特性を生かしたまちづくりを地域住民の手で進めていきます。



▲話し合いでは、意見や要望を出し合った(P43～46に一覧を掲載)

## 大野地区での昔の暮らし

### 昔の遊び

うさぎの捕獲

アナグマの捕獲

メジロの捕獲

(ラジオで紹介される程  
有名なスポットだった)

そい遊び

金輪まわし

竹馬

フッゴマ

ぎったゆん(ばちんこ)

竹とんぼ

ゴム飛び

手野球

### 昔の水

大谷まで汲みに行っていた

水汲みは女性と子供の仕事だった

両天秤で家まで運んだ

農作物へは自然の雨水

使い切りではなく、飲用水→料理用→洗濯・風呂→掃除と何度も使った

### 昔食べていたもの

うんべ

ごろべ

あけび

しいの実

イタドリ

ゼンマイ

タケノコ

山でとれる物は何でも食べた

うさぎ(料理は男性の仕事だった)

大麦と白米を混ぜたご飯



# 大野原大羽重神社の棒踊り

垂水市  
11月3日豊年祭で披露  
鹿兒島大学学生も参加

垂水市大野原地区で永く伝えられてきた棒踊りが保存会で復活し、最近では伝承のために子どもたちを主体に11月3日の豊年祭で踊られているが、今年は地元に残っている若者を中心に声を掛け、鹿兒島大学演習林で実習している鹿大生らも参加し、豊年祭に向け熱心に練習している。棒踊りは今から380

年前、関ヶ原合戦に敗れた島津義弘公が郷土の士気を鼓舞するために始まり、やがて武士の踊りから農民の踊りへ変わって、大正3年の桜島噴火で移住してきた大野原地区の住民の開墾の苦勞を癒すために青年団に教えられたのが始まり。戦後も踊り継がれてきたが、棒踊り保存会として昭和51年に新たに組

10/28付 南九州 1面



地元の若者や大学生らが本番に向け熱心に練習＝垂水市大野原

織として復活。前田清輝会長らの働きかけと地元に残っている大野原地区青年団の宮下直弥団長の呼びかけで、地元だけでなく垂水市街地や鹿屋市に移り住んだり働いたりしている地元出身の若者らも集まり、中学生から20代、30代、40代、50代まで、さらに鹿兒島大学の学生ら約20人も挑戦している。また、練習会場の大野原多目的研修集会所施設内では、地域の長老が棒踊りに使う草鞋を一生懸命編んでおり、瀬脇哲弥さん(79)、前田博道さん(77)らが戦後すぐの10代から20代にかけて棒

で叩かれながら厳しく教えられたことなどを話し、周囲も「当時の青年団はもてよった」としみじみと懐かしがったりして昔を振り返っていた。本番は11月3日午後1時過ぎから、地区内の大羽重神社で行われる予定。



毎 日 新 聞

本番を前にした練習。激しい動きが特徴だ



# 棒踊りで集落結束

垂水市の大羽重神社 豊年祭であす披露

垂水市大野原地区の青壮年らが、3日にある大羽重神社豊年祭で棒踊りを披露する。集落の結束を図る伝統芸能として長年受け継いできた棒踊り。今年は例年にも増して練習に熱が入る。

同地区は、1914(大正3)年の桜島大爆発で被害に遭った人たちの移住先の一つ。標高約550坪の荒地の開拓は困難を極め、棒踊りは開墾への士気を高めようと始まったとされる。太平洋戦争で途絶えていたが、76

年に復活した。

踊りは4種類あり、6人1組が四つの歌に合わせて、木剣と棒を激しく交差させる勇壮な踊り。練習は10月中旬から始まり、仕事を終えた大人や小中学生ら約20人が集まった。地区には鹿児島大演習林があることから同大との縁もあり、学生数人も踊り手に加わる。55年ごろには約500人いた住民も現在で

は約120人。過疎と高齢化が進み、地区青年部長の宮下直弥さん(30)は「棒踊りは集落の団結の象徴。地区の人たちだけでなく、多くの人たちに見に来ていただきたい活性化につながる」と語る。豊年祭は3日午後1時ごろから、大羽重神社境内で。問い合わせは宮下商店(0994・326321)へ。

【新開良一】



第3種郵便物認可

南 日

大羽重神社に棒踊りを奉納する鹿児島大学の学生や地元の若者  
—垂水市田神



垂水市田神の大野地区の豊年祭が3日、大羽重神社であり、棒踊りが奉納された。地域の若者に交じり、鹿児島大学の学生やOB、関係者計6人が踊り手や旗持ちで初参加。過疎高齢化の進む集落に活気が戻った。

# 鹿大生の元気集落活気

〈1/9南〉

## 棒踊り奉納 垂水・大野の活性化手助け

高隈山系の高峠にある大野地区は、1914（大正3）年の大噴火で被災した桜島や垂水市の水之上集落から移住してきた人たちが開拓した。棒踊りも薩摩半島から伝わった水之上で踊られていたもので、住民の士気を高めようと青年団が踊り始めた。戦争で一時中断したが、76年の保存会結成で復活した。

鹿児島大生の参加は、近隣の同大演習林を通じ交流があることから、地域活性化のため住民と学生側の気持ち一致。10月中旬から週4日夜間練習を行い、学生は授業終了後、フェリーで通った。

本番は、18人が鮮やかな衣装で六尺棒、三尺棒を持ち唄に合わせて舞い踊った。同大法

文学部2年の小林聖佳さん(20)は「初めはテンポが速くて不安だったが、地域の方の指導で踊ることができてホッとしている。今後も積極的に地域活動に参加したい」と話す。

保存会の前田清輝会長(55)は「大学生や若者が伝統を学び、跡を継ぐ気持ちがある」。大野青年部の宮下直弥部長(30)は「高齢者から子どもたちまで『開拓魂』を合言葉に地域を切り開いてきた団結力の強さを感じた。今後も力を合わせ地域活性化に努める」と話した。



# 地域の結束さらに強く

## 垂水市大野原大羽重神社の棒踊り

### 地元若者や大学生が盛り上げ

垂水市大野原地区で永く伝えられてきた棒踊りが保存会で復活し、3日の豊年祭の中で踊られ、地域の志気を高め結束を強めた。

今年の棒踊りは地元に残っている若者を中心に声を掛け、鹿児島大学演習林で関わりのある学生らも参加して練習を重ねてきた。この日は、大羽

重神社の境内で地区民や市民が見守る中、18人が鮮やかな衣装で6尺棒、3尺棒を持ち勇壮に踊った。

同踊り保存会の前田清輝会長(55)は、「人数を集めるのが大変でしたが今の若い人を中心に小中学生を含め、鹿児島大学の学生も協力してくれて踊りが披露できた。特



に学生たちは衣装に憧れがあったみたいで躍れるか不安だったようですが、チャレンジしてくれました。保存会も地元だけでなく展開していくことに

なりそうですが、祝い事などでまた機会があれば披露してしていきたい。久々の大成功でした」と述べた。

大野青年団の宮下直弥

### さらなる地域活性化につなげる棒踊りへ

部長(30)は「地域の人たちに想像以上に来てもらい、躍る人たちも地元を中心に鹿大生も参加して無事に終えた。これを契機に地域活性化に取り組んでいきたい。120%の出来でした」と

語った。

また親子で踊った岡山好美さん(小学5年)は「踊ったのは初めてで難しかったけど、お姉ちゃんもずっとやっていて、家でおさらいをしたり練習をしてきた。本番は練習より凄く緊張しました。父親の光一(43)さんは「私も20年くらいずっと踊り続けてきた。兄ちゃんや姉ちゃんも踊ってききましたので、伝統芸能として今後も残していきたい」と話し、最年長の迫田久さん(52)は「いつもは2回連続で踊るのですが、今年は1回なのでなんとか踊れました。持

病の腰痛が出ない限り、体力の続く限り、頑張っ

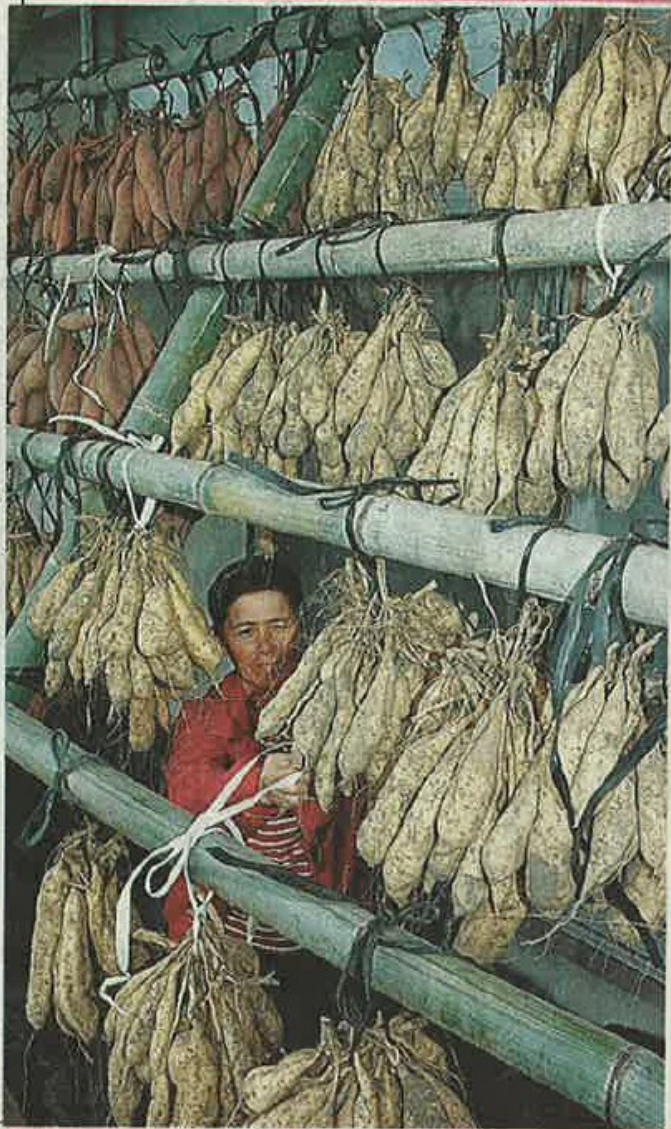
て踊りたい」と話していた。初めて参加した鹿児島大学の玉置理那さん(21)は「10回以上の練習を続け、鹿児島に帰ってからもおさらいをしてきましたが、本番は練習と違いとても難しかった。棒踊りの写真を見て私たちがもやりたいと思ったのが最初で、やれるかなあと思いつつ踊ることができて嬉しい。地元のおつきあいもこれまで続けてきて、また何かの機会に一緒に踊りたい」と語っていた。



# 甘い「つらさげ」がいます

標高約550メートルの山あいにある垂水市大野地区の農家の軒先などに「サツマイモのカーテン」がお目見えした。写真。寒にさらして甘くなる「つらさげ」と呼ばれる作業。寒さが厳しくなる季節ならではの光景だ。

約50世帯120人が野菜やお茶を作るなどして暮らしを立てている。1〜2カ月間の「つら



**10** 師走  
スケッチ

1/4 軒  
29面

「さげ」で糖度が増したイモは主に自宅で食べたり、親類に分けたりしており、ほとんど流通しない。

地区住民はそのおいしさを知ってもらおうと、12日午前10時〜午後2時、大野小中学校跡地で初の物産展を開く。焼きイモにして販売するほか、高冷地野菜などの特産物を並べる。豚汁の振る舞いも。問い合わせは、地区公民館別館（0994・32・0156）。



# つらさげいも 甘〜く歓迎

## あす初の物産展



標高約500mにある垂水市の大野原集落では、軒先にサツマイモをつるして寒風にさらす「つらさげいも」が伝統的に行われている。甘みが増し、しっとりとした味わいになるといふ。この味を知ってもらおうと地元が主催する初めての物産展が12日、旧大野小中学校で開かれる。

## 寒風に当て軒先で熟成

〈南〉  
垂水・大野原

大野地区公民館長の田之上光雄さん(56)によると、イモはコガネセンカンや紅はるか。霜が降りる直前までつり下げ、冷たい風に約1カ月当てると、実が熟成され糖度が上がる。

大野地区公民館長の田之上光雄さん(56)によると、現在約50世帯約120人が暮らす。過疎高齢化の集落を活気づけようと交流人口増に取り組んでおり、足を運んでもらうため物産展を企画した。

「大野原いきいき祭り」と名付け、焼きいも、煮いも、いもプリン、いもせんざい、農産物販売のほか、野菜収穫、もちつき、鹿児島大学農学部井倉洋二准教授による森林散策ツアー体験もある。午前10時〜午後2時。先着100人に豚汁無料配布。

加工グループ「高峠わかば」の内田のり子会長(52)は「寒暖の差がはくむ農産物の甘みを味わって」と呼びかける。同地区公民館別館―0994(32)0156。

軒先につるされたサツマイモ  
―9日、垂水市田神



地元で栽培されたダイコンなどが並んだ会場

## 山里の祭り「盛況」

800人が「景色と食」楽しむ

（1/5毎日）  
垂水市

垂水市大野原地区でこのほど、大野原いき祭りが開かれ、地区内外から訪れた約800人が山里の景色と食を楽しんだ。

地区は標高約550メートルの山間地。約50世帯120人が暮らし、ニンジンやダイコン、イモ、豆類などの栽培が盛ん。祭りは、新鮮で

おいしい農産物を味わってもらおうと初めて開いた。

会場の大野小中学校跡地には車の交通整理員が立つほどの盛況ぶり。サツマイモのてんぷらなどが飛ぶように売れ、みずみずしいダイコンやニンジンなどを多くの人買い求めていた。

田之上光雄・地区公民館長(56)は「集落みんなで盛り上げた初めての祭り。大勢の人に来ていただいて、高齢化と過疎が進む集落の励みになります」と話した。【新開良一】



# 小さな集落から大きな発信！

## 大野原（うのばい）いきいき祭り

### 地域の農産物販売など魅力満載イベント



寒暖差によりできるおいしい野菜とその加工品に行列

大野原（うのばい）いきいき祭りが12日、垂水市の旧大野小中学校で開催され、地元で採れた野菜の販売、料理の試食・販売、特産品の宣伝・販売、大野の文化と暮らしを紹介する活動、体験活動などがあり、地元垂水はもちろん鹿屋市など市外からも大勢が訪れ賑わった。

同地区は、猿ヶ城の上——トルの集落、。年々過疎流にある標高500メートル——化が進み、2006年に

学校が統合され寂しくなっていた。

一方で、この現状をどうにかしようと地域民が集まり、11月の豊年祭では永く伝えられてきた大羽重神社の棒踊りをさらに盛り上げ、地元の若者や同地区出身者を中心に鹿児島大学演習林の学生らも参加して開催されるなど、活性化の糸口を模索してきた。

そして今回、県内いち？小っちゃな物産展として企画、これらイベントなどを通じ様々な交流を行い、また多くの皆様に大野の魅力を知ってもらいたいという思いを込め準備を青年部を中心に進めてきた。

この日は、寒暖差の大きい地の利を活かして作った根菜類の販売ほか、先着100人に豚汁無料サービスも。

また、切らずに干しておいしさが増し、糖度も36に上がった「つらさげ芋」を販売、オープンと同時に完売するなどうれしい悲鳴も。

鹿児島大学学生らによるクリスマス用リース作りや演習林の中をウォーキング、丸太切り競争、餅つき大会などのイベントで盛り上がった。

同地区青年部の宮下直弥部長は「目標人数は500人でしたが、その予想を大きく上回る776人が皆様の御陰で来場。出品の農産物、特につらさげ芋も多数準備していたものの開始早々で売切れ、来年は住民総出でつらさげ芋中心に特産物

を多数用意したい。地区に住む高齢者の方や住民の方々の『久しぶりににぎわって、いろんな人とも話ができて楽しかったがよ』という声は何よりうれしかった。地域の人々の自信にもなったと、まずは地区の皆様が楽しめる元気になり、かつ多くのお客様にも楽しんでいただくというのが目標でしたので、その目標を達成できました。県下には大野原のような小さな集落もあるので、そういった方々にもこういうのを知っていただき元気を出して『やればできる！』というのを感じてもらえとまた嬉しい。青年部としても頑張りましたが、僕たちだけでは何もできません、やはり地域みんなの力があってからこそ今回の大盛況だったと思います」と話していた。



もちつきを楽しむ子どもたち  
—垂水市田神の旧大野小中学校

# 過疎の悩み 吹き飛ばせ

## 垂水・大野原いきいき祭り

垂水市田神の旧大野小中学校体育館で12日、「大野原いきいき祭り」が開かれた。寒風にさらして甘みの増した「つらさげいも」の進む大野原集落を活性化しようと大野地区

## 「つらさげいも」長い列

17日南日本18日面

公民館と、市と鹿児島大学が連携して運営する大野ESD自然学校が主催し、初開催。つらさげいもの焼きいもや天ぷらのがねなどに長蛇の列ができ、参加者は住民が作った野菜や花、ミニ門松を買い求めた。2006年に閉校した同校の校舎前では、子どもたちが地域住民と一緒にもちつきを楽しんだ。

家族や友人と訪れた鹿屋市寿4丁目の会社員新村由佳里さん(31)は「集落の方は気さくで、アットホーム。初めての祭りに多くの人が集まり、地域活性化の大切さを感じる」。大野青年部の宮下直弥部長(30)は「予想を上回る来場でつらさげいもが開始早々に売り切れ、後から来た方まで回らなかった。来年は住民総出でつらさげいも、大野原特産の農産物を多数準備し、次回につなげていきたい」と話した。

## 南風録

垂水市の高峠に近い大野原集落は、桜島の正大噴火の被災者らが開拓した。厳しい自然環境の中で最初から選ばれた作物は、収穫が確実に見込めるサツマイモだった▼掘り取ったイモは軒先につるすのがこの集落のやり方だ。「つらさげいも」と呼び、寒風にさらすと収穫時よりずっと甘くなることを体験的に知った先人から受け継ぐ▼イモはコガネセンガンやベニハヤトなど一般的な種類である。最近、県農業開発総合センターで測定してもらったところ、甘さで定評のある高級品並みかそれ以上の糖度があることがわかった。当のイモたちは魔法にかけられたシンデレラの気分だろう▼ただ自家消費分くらいしか生産していないため、外部にはほとんど存在を知られていなかった。公民館長の田之上光雄さんは「子どものころから食べていて甘いとは思っていたが、住民も宣伝するまでの意識はなかった」と話す▼日の目を見たのは、過疎高齢化が進む集落を活気づけようと、初めてのイベント「大野原いきいき祭り」を開くことになったからだ。集客の目玉を探そうと、これこそ自慢できるものと気付いた。当日は大勢の人でにぎわい、つらさげいもは早々に売り切れた▼住民は予想以上の反応に来年も開催しようとして、今から鼻息が荒い。必死になって探すと、身近にある地域の宝が見えてくる。普通のイモが教えてくれた。



# 「糖度36」

垂水市猿ヶ城の上流  
標高500mに位置し、  
高峠つっじヶ丘の隣にある集落、  
大野原。

初めて開催する物産展のため、  
「つらさげ」の糖度を測ってみた。  
「つらさげ」とは、切らずにつるして  
少し乾燥させたサツマイモの  
地元での呼びかただ。

比べてみるために、有名な芋を  
何種類か買ってきた。

**結果、店の芋は 20〜30度。  
「つらさげ」は、なんと36度!**

是非、みんなにもこのおいしさを  
知ってほしい。きっと、ほかの野菜も  
気に入ってもらえるはずだ。

（ブリックタス計による。芋1水1）

# うのばい 大野原いぎいぎ祭り

## 県内いち!?小っちな物産展

※数量に限りがあります。予めご了承下さい。

### 野菜の販売

さつまいも・里芋・大根・人参  
大豆・小豆・そば 等



### 特産品

お茶・木炭・わさび  
木工品・ミニ門松 など



### 郷土料理

つらさげの焼き芋・かね  
大学芋・豚汁・ぜんざい



### 体験コーナー

餅つき、竹や木の小物作り  
野菜の収穫体験 など



鹿児島大学内森林教室  
小1時間ツアー

鹿児島大学農学部准教授  
高橋演習林主任  
井倉 洋二 先生  
<午前>  
10:30~11:30  
<午後>  
13:00~14:00



先着100名様  
あつあつの  
豚汁  
プレゼント!

平成22年12月12日(日) 10時~14時

旧 大野小中学校校庭 (雨天時は体育館)

主催: 大野地区公民館・大野ESD自然学校 後援: 垂水市教育委員会

お問い合わせ: 大野地区公民館別館 (電話0994-32-0156)



# 大野のいま

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143（直通）

## 大野地区公民館 当面の日程

- 11月16日（火）19時  
「産業部門」1回目話し合  
い（大野地区公民館）
- 11月24日（水）19時  
「住環境部門」1回目話し  
合い（大野地区公民館）
- 12月12日（日）10時  
「大野いきいき祭り」（旧  
大野小中学校校庭）

## 「大野づくり計画」に向け、一回目の話し合いが行われました

「大野づくり計画」の第一回目となる話し合いが、十一月八日（月）夜七時から、大野地区公民館で開催されました。

この日は、大野地区公民館の運営委員の方々のうち、「福祉・教育」の課題に特に関連の深い組織の代表者ら全一六名が出席し、私たちの一〇年後の「ありたい姿」や将来像について、課題を挙げたり意見交換が行われ、夜九時半まで



話は尽きませんとめましたので、ぜひ見てくださ

▲参加された方々の熱心な話し合いが続く

話し合いは「福祉・教育」だけでなく、高峠公園の整備や、若者が地元から通える住環境の問題、また、特産品や加工品を「売る」取り組みについても「こうしたい」といういろんなアイデアがいっぱい出ました。また、こんな意見もありました。「まず大野に関心を持ってもらいたい。」これらの意見を大切にしながら、大事な大野を作っていくましよう。

右にあるとおり、事務局では関連の深い3つの部門（「福祉・教育」・「産業」・「住環境」）で話し合いを行うことにしています。出席者から「話し合いはまとめてやった方がよい。」という意見が出ました。もちろん進め方を含め変更も可能です。みなさんお忙しい時期だと思いますが、話し合いのときでなくても、みなさんの声を事務局へお気軽にお寄せください。（企画課 地域政策係 直通電話 32-1143）

# だれが、どのように、何をする？



# 大野に人を呼ぶ

## 福祉

・高齢者の安否確認（毎日旗をあげて目印に）

・高齢者の病院・買い物などのときの乗りもの（交通対策）

・大野に若い人が住める住宅を作る

・教職員住宅の改修

・大野に若い人が住める環境

・高峠の観光客の減少

・高峠の計画的な開発

・紅葉する樹の並木道

・高峠の管理を住民に任せてほしい（コスモスを復活）

## 高峠公園

・住民の声を反映した高峠公園づくり

・高峠にクヌギ・ユズを植えてカブトムシが採れるように

・臭気問題（お茶への影響）  
汚水は値クリア  
臭いは条例等で対策

・ジャパンファームの臭気問題

・大学と連携して消臭技術の確立を

## 教育

・地元住民による物産フェア開催

・大野ちよこっと暮らし（お試し体験）

・商品開発に特化した専門講師による商品開発講座

・大野で出前講座を開いて商品開発（菓子等）につなげる

・学校近くの田んぼにホテルを呼ぶ、クレソン栽培

・市内のスポーツ大会を大野で開催（おにぎり等を提供する）

・自然学校に来る子供たちと大野の人々とのふれ合い

・大野の商品を売る専門店を大野に作る

・郷土芸能まつり

・自然学校と地域との連携をもっと密に（活動内容を検討する）

・大野の特産品の予約をとって年末に発送する（2,000円お任せコースなど）

・大野小中の校庭にナイター設備

## 自然学校

・市内各地区のお店（週替わりで各地区の商品を出店）をフェリーターミナルに

・市内7つの棒踊をまとめて大野で発表・競演

・自然学校に来た子供・学生たちの大野での発表会

平成22年11月8日話し合いで出されたおもな意見

# 話し合いをつづけています

# 大野のいま



十一月一日  
（火）夜七時から、  
「大野づくり計画」の話し合いと

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143（直通）

## 大野地区公民館 当面の日程

- 11月24日（水）19時  
「住環境部門」1回目話し  
合い（大野地区公民館）
- 12月12日（日）10時  
「大野いきいき祭り」（旧  
大野小中学校校庭）

して、「産業部門」のメンバーによる一回目の話し合いを行いました。市の担当なども含め、一七名の参加がありました。

話し合いでは、「大野の野菜は人気がある。いちど売って銭（せん）をとってみらんと。」といった意見があったり、農産加工品の取り組みについても、「大野産のものを使っておいしいものもできています。次は売り方を学んで自信をつけたい。」という前向きな意見交換がありました。

**たくさんのご意見ありがとうございました**

一月初めに、振興会長さんを通じて大野地区のみなさまへ意見募集を行いました。その結果、二四世帯から貴重なご意見が寄せられました。

いくつか紹介すると、「人口増加」や「コスモスなど高味の手入れ」を望むものが多かったほか、「グラウンドゴルフ場の整備」や「お年寄りが昼間に過ごせるような場所を作りたい」というものもありました。

これらも、もちろん「大野づくり計画」にいかしてゆきます。これからみなさんの声をお気軽に寄せてください。（企画課 地域政策係 電話32-1143）

# だれが、どのように、何をやる？



# 農林畜産業

・茶業が柱

・特色ある茶づくり

・有機肥料

・無農薬

・「付加価値」とは？

・お茶せっけん、紅茶、ウーロン茶

・高峠でハウス

・茶づくり体験

・お茶だけではない  
住民全体で

・降灰対策

・個人への補助

・補助のあり方見直し

・大野原の物産館

・人がいる場所に出す

・アザレア？

・販路拡大

・牛肉出荷が安い

・良い品質でも売れない(景気・少子化)

・焼き肉店

・発送転換し売れる肉づくり

・大野の野菜の良さをアピール

・法人化・団体化

・農業株式会社

・焼酎販売

・加工商品

・農畜産すべての大野ブランド

・季節商品

・地区でまとまる

・軽トラ市

# 空き家対策

・夏の別荘に短期利用、宿泊用

・借り手がない

・修繕費が高い

・林業体験受け入れて山がきれいに

・山体験・タケノコとり

・農園オーナー募集

・垂桜は土地有

・ブルーベリー

・観光農園

・大野らしさをいかす

・地区でとりまとめ

・市の空家バンク制度

・空地の登録

・土地付き、山付き

・五右衛門風呂

・情報発信し、リピーターを確保

・カラス対策

・ジャムづくり

・自然学校との連携

# 地区美化

・奉仕作業人手不足

・作業回数を増？

・高峠対策

・臭いについてはみんなで頼む

・会社の人には認識不足

・10年後のクリーンな地域へ

・もっと声を大に

・子供が喜ぶ

# 農産加工品

・加工技術の向上

・宣伝のしかた

・加工グループの管理と運営法を学ぶ

・消費者アンケートで「また買いたい」をつかむ

・次のステップに進むために研修

平成22年11月16日話し合いで出されたおもな意見

# 大野のいま

## 「人を増やしたい！」

### みんなで考える大野地区 10 年後の「ありたい姿」

「大野づくり計画」3 回目の話し合い(住環境部門 1 回目)は、大野原・垂桜の両振興会のみなさんにも声をかけ、全一八名の参加で十一月二十四日(水)に行いました。この日も、「地区公民館が古くなって、いたんだところの修繕を」要望する意見や、「大野原の水道管整備、大野原と垂桜連絡道の拡張に関する事業導入」の要望など、みなさんの生活に直接関係する意見とともに活発な話し合いが行なわれています。また、話し合いでは多くの方が思いえが



▲ 3 回目の話し合いの様子

く一〇年後の「ありたい姿」が、「集落の人口を増やしたい」にまとめられるのでは？という意見も出されました。裏面に出しましたのでご覧ください。

**参加しましょう  
振興会の臨時総会  
があります**

右の日程で振興会臨時総会を開き、全員で「大野づくり計画」を確認することになりました。

これまで、各団体長さんらによる 3 回の話し合いや、振興会のみなさまから貴重なご意見が寄せられています。が、二十四日の話し合いでは、「みんなの計画だからみんなで決めたい」という意見や、「もっと住民ひとりひとりの意識を高める必要があるのでは」という指摘もあり、総会開催となりました。

総会では、意見のとりまとめや、今後の進め方等についても話し合われる予定です。

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143 (直通)

大野地区公民館 当面の日程	
12月1日(水) 19時	大野原振興会臨時総会 (大野地区公民館)
12月12日(日) 10時	「大野原いきいき祭り」 (旧大野小中学校校庭)
12月13日(月) 19時	垂桜振興会臨時総会 (垂桜公民館)

# だれが、どのように、何をする？

# 暮らし・住環境

・ 公民館の補修  
(塗り替え・屋根)

・ 学校先のカーブ  
見通し悪い

・ 大野原～垂桜の  
連絡道の拡張を要  
望

・ 道路の悪いところ  
を改修

・ 大野原防火用水  
タンク (生コン)

・ 臭気対策

・ 水道が不便

・ 水源地までの舗  
装を要望

・ 事業には辺地債  
を活用

・ 宅地譲渡制度

・ 大野原急速ろ過  
器のろ過砂更新時  
期

・ 水道管を改修し、  
水圧の改善を

・ 防災無線の受信  
機を設置

・ 消火栓を整備

・ 畑の貸出制度

# 「人を増やしたい！」

・ 桜 (ソメイヨシ  
ノ) の花芽が着か  
ない

・ 垂桜の桜は山桜

・ 大野でのお試し  
暮らし体験

・ 学校プールの有  
効活用 (ニジマス  
等)

・ 高峠公園にグラン  
ドゴルフ場

・ プールで釣り堀り

## 桜・花木

## 高峠・自然学校

平成22年11月24日話し合いで出されたおもな意見



# 大野のいま

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143（直通）

## 大野地区公民館 当面の日程

12月12日（日）10時  
「大野原いきいき祭り」  
（旧大野小中学校校庭）

12月13日（月）19時  
垂桜振興会臨時総会  
（垂桜公民館）

## 大野原振興会の 「こうありたい」 振興会臨時総会報告その1

掲載しておりますのでご覧下さい。

一二月一日（水）、大野地区公民館で大野原振興会臨時総会が開催され、「大野づくり計画」について、これまでの運営委員（団体長さんたち）の努力や成果の説明とともに、振興会としての議論が行われました。

振興会として何が大事で、何を計画に取り上げるか  
総会では、これまでの話し合いで出された九二の意見や、あらたに出された意見をもとに、事務局が作成したたたき台を使って協議や質疑がありました。



→12月1日総会の様子

今後の協議については、一三日（月）に開催される垂桜振興会臨時総会のあとに、運営委員のみなさんが中心となって、「だれが」、「いつ（どのよう）」、「何をやる」をより具体的に作り上げていくことが提案されました。

「一〇年後の「ありたい姿」」「大野の人を増やしたい」に向かって、これまでの話し合いは毎回盛り上がり、たくさん意見や要望が出されましたが、振り返って考えるとそれらは「大野の人を増やしたい」というみんなの願いにつながります。そのねがいを実現するために、具体的に一年目は何をやる？、二年目はどうする？、また、課題を解決するために市は具体的に一年目にどう動くか？、などがこれからの計画づくりに向けた話し合いのテーマとなります。

# だれが、どのように、何をやる？

## 最重要項目(大野原振興会)

臨時総会において、たたき台の92項目にわたる意見や要望から協議選択

こう ありたい	部門	たたき台 番号	意見・要望
わたしたちは大野に人を増やしたい	住環境	68・69	・水道施設、水道管の整備・改修 ・大野原急速ろ過器のろ過砂更新
		83・84	・臭気問題の解決に向け、みんなで事業所に頼む、もっと声を大に ・市と大学が連携して消臭技術の確立を
		記載なし	・県道(中尾橋～田地明区間)の拡幅の早期実現
		22 中心に	・高峠公園整備、コスモスの再生
	福祉・教育	1	・高齢者の安否確認(毎日旗をあげて目印に)
		5	・高齢者が日中過ごせるような場所をつくる
		6	・地区公民館の補修(塗り替え・屋根)

～大野地区10年後の  
「ありたい姿」～

# 大野のいま

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143（直通）

事務局より、  
運営委員の  
みなさんへ  
お知らせ

今後の話し  
合い日程ま  
りが決まり  
ましたら、  
事務局より  
お知らせし  
ます。

## 垂桜振興会の

### 「最重点項目」を決定

振興会臨時総会報告その2

「大野づくり計画」を含め、多くの議論が  
に関する垂桜振興会 ありました。

臨時総会は、垂桜公 たとえば、地元だけ  
民館で十二月一日 ではなく、登山者や来訪  
（月）に開かれ、垂 者がくつろげるよう、  
桜振興会から二名 垂桜公民館の倉庫の  
出席、市企画課四名 改修を要望する意見  
が参加しました。 や、地区内の市道・農

先日開催された大 道整備など、垂桜に密  
野原振興会の臨時総 接にかかわる意見が  
会と同様に、これま 出た一方、「大野はひ  
での運営委員（団体 とつだ」という意見も  
長さんたち）の取り あり、大野原・垂桜み  
組みを報告したう んなで取り組む「大野  
え、振興会の協議に づくり」であることが  
入り、あらたな意見 再確認されました。

**「最重点項目」  
を裏面に掲載**

垂桜振興会では、こ  
の総会で出た意見を、  
振興会として最重点  
項目とし、今後の話し  
合いに取り上げてい  
くこととなりました。



▲12/13 垂桜振興会臨時総会の様子

「大野づくり計画」は、  
これから正念場をむかえます

総会の場で、「大野づくり計画」

の今後の話し合いについて、運営  
委員のみなさんが中心となって進  
めていくことが提案され、了承さ  
れました。これから、両振興会の  
最重要・最重点に位置付けられた  
意見や要望をはじめ、これまでの  
多くの意見に対し、「だれが」「い  
つ（どのよう）」「何を」か  
を、具体的に作り上げていきます。

「大野づくり計画」はみなさん  
の計画ですから、今後の話し合い  
についても、地区のみなさんの参  
加は大歓迎です。

大野地区は将来に向けすでに動  
き出しています。「豊年祭」や「大  
野原いきいき祭り」で実感された  
「自分たちはここまでできる」の  
手ごたえを「大野づくり計画」に  
つなげていくため、これからもみ  
なさんのご協力をお願いします。

# だれが、どのように、何をする？



## 最重点項目(垂桜振興会)

12/13 臨時総会において出席者から出された意見をもつて、最重点項目とする

・6年後の肝属地区茶業振興大会に向けた垂桜の対応、整備

・田地明～垂桜集落への市道整備

・農道(茶園周辺3本)の整備

・降灰対策のためビニールハウス導入検討

- ・看板設置の要望
  - ・登山口までの道標
  - ・登山口
  - ・垂桜から垂水への分岐点
  - ・ローマ字の看板

「大野はひとつ」

・垂桜公民館の倉庫を改修する

- ・公民館をみんなが「くつろげる場所」「集まる場所」に

・登山客向けに、地域産品の販売所をつくる

・垂桜公民館上の運動場の管理方法を改善

・紅葉樹を生かして散策できる公園と、駐車場の整備

- ・ニッセイの森など散策ルートづくり

～大野地区10年後の「ありたい姿」～

# 「大野づくり計画」は次の段階へ

# 大野のいま

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143（直通）



新しい年を迎えました。  
「大野づくり計画」の話し合いも、新たな  
次の段階に入っていますので、報告します。

1月11日（火）に行われた話し合いの様子

話し合いは、一月に入ってから運営委員のみなさんを中心にご二回行われています。話し合いの進め方に関して、「大野はこうありたい」という意見要望の整理や選択、しぼり込みが必要なのではないかと出席者の考えが一致したため、これまでに寄せられたすべての意見や要望を振り返りながら、それぞれが整理選択され、あるいはしぼり込まれました。そして、真剣な協議の結果二八項目に整理された「こうありたい」のひとつひとつについて、具体的に「だれが」「いつ（どのよう）に」「何を」するのか、具体の協議を進めています。毎回予定の時間をオーバーするなど熱心な議論が続いており、「大野づくり計画」は確実に前進しています（裏面に過去二回分の協議概要を掲載）。

右の日程のとおり、次回からは、市の関係課長等も話し合いに加わり、行政が関わる各分野の項目について、より具体的な協議を行う予定です。運営委員に限らず、多くの参加をお願いします。

大野地区公民館 当面の日程	
1月21日（金）19時	運営委員中心の話し合い（市の関係課長同席） （大野地区公民館）
.....	
1月28日（金）19時	運営委員中心の話し合い（市の関係課長同席） （大野地区公民館）

# だれが、どのように、何を？

## 「大野づくり計画」のいま

日 程	参加者数 (事務局 含む)	概 要
1月11日(火) 19:00~ 21:30	18名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの進め方を全体で確認</li> <li>・すべての意見や要望を振り返る</li> <li>・整理、しぼりこみ作業を行う</li> <li>・全部で102を数えた項目が、28の「こうありたい」に整理、統合される</li> </ul>
1月14日(金) 19:00~ 22:00	17名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめられた項目ごとに、「地域」・「市」・「県、国」の<u>だれが動くのか</u>を決めてゆく</li> <li>・同様に、「地域」・「市」・「県、国」が<u>いつ(前期・中期・後期)、どのように動くのか</u>を語り合う</li> <li>・しぼりこんだ中でも特に大事と判断された項目に「☆」印をつけ、優先度を一層高める</li> <li>・「大野原いきいき祭り」と「ふれあいスポーツ大会」、「夏祭り」・「豊年祭」の開催を、「こうありたい」項目に追加する</li> </ul>

だれが、どのように、何をする？



# 大野のいま

発行：大野地区公民館  
「大野づくり計画」  
事務局  
〒891-2192  
垂水市役所企画課  
地域政策係  
32-1143（直通）

## 大野地区公民館 当面の日程

2月18日（金）  
19時～  
計画書全体の内  
容を協議する話  
し合い  
（大野地区公民館）

### ・ 行動計画を補強する ・ 実現の可能性を追求する ～大野地区と市役所関係課長との対話～

「大野づくり」話し合いは後半にさしかかっています。今回は、市の関係課長も話し合いに同席しましたので、報告します。

みなさんの声から生まれ、真剣な話し合いの結果整理された二十八項目の「こうありたい」について、どうすれば実現に向かうのか、地区と行政がお互いに前向きに話し合いました。一月二十一日、二十八日の二

回に分けた話し合いには、事務局を含め延べ五十五名もの参加がありました。

一月二十一日の話し合いでは、「人を呼び込むための住宅整備」について、市役所課長から「市全体の人口が減っていく中で、

大野地区に早急に市営住宅を建てる現状

にはないが、これは長期計画であり、まず空

いている家の有効活用から取り組んでみ



▲1月21日（金）市関係課長同席の話し合い

ては」という現実的な助言がありました。「人をふやしたい」という地区の切実な願いをエネルギーにして、たとえば点在する空き家をみんな

で調査し、登録可能な空き家については「市空き家バンク制度」を活用し、インターネット上で全国で紹介していくなど、当面する地域の取り組みのより具体的な道すじが見えてきたのではないのでしょうか。さらに、対話の中からプール側の旧教頭住宅にも話題が及び、将来の活用方法についても参加者同士で議論が交わされております。

一方、二十八日の話し合いでは、消火栓設置要望の話から、地域の防火に対する心がまえの話に発展し、垂桜振興会では「いざ」というときに備えて皆がサイレンを鳴らせるよう、かねての訓練に加えることになりました。地域にとってきわめて大事で、かつ具体的な「何をやる？」が生まれました。計画の補強につながる一例です。そのほかの主な対話概要を裏面に掲載しますのでご覧下さい。

# だれが、どのように、何をする？

## 概 要

日 程、 参加者数（市役 所関係各課、事 務局含む）	対話（主なもののみ掲載します）	
	地 区	市役所関係各課
1月21日（金） 19:00～21:30 26名参加	公民館のサロンや高齢者の取 り組みは、自分たちの案を持っ て地域に合った取り組みをし たい。	講師派遣やバス送迎は可能なので、 地域の案や計画を持って相談いた だきたい（保健福祉課）。
	大野原水道施設整備導入に補 助事業の補助率引き上げを要 望する。小中学校時代から学校 にも水を供給してきた。	市内 22 箇所の集落水道の整備を 現行どおりで行っており、公平性の 観点から補助率の引き上げは厳し い。何らかの方法で自分たちの積み 立てを十分に行っていただくなど の対応も必要（生活環境課）。
	人を呼び込むための住宅整備。 市営住宅を含む、若い人が住め る住宅の整備を要望。	市の全体人口が減っている中で、需 要と供給の面から、今、早急に新た に建てなければならない状況では ない。まずは、地区内で空いている 家の有効活用を（土木課・企画課）。
1月28日（金） 19:00～21:30 29名参加	垂桜消火栓を地下式から地上 式へ改修することを要望。 かねての訓練で防火・消火機材 の使い方を女性や高齢者を含 めてみんなが知っておくこと が大事だ。	市内においても地上式消火栓の設 置はなく、現在のところ改修の予定 はない。 大野原防火水槽については、改修 （生コン）を計画している。分団と 日程を打ち合わせる（消防本部）。
	地区公民館の補修。とくに排水 の改善は大至急。 垂桜公民館の倉庫新築。	実際に見せていただく。補修部分の 見積をあらためて取っていただき たい。 垂桜の方の対象事業は総額経費の 40%、上限36万円（社会教育課）。
	高峠コスモスの植え付けと管 理を実施するため、公園内の畑 の貸し出しを要望。	畑の貸し出しは、管理できる面積に 応じて可能。できる範囲でいっしょ にやる（商工観光課）。

両日の対話を「大野づくり計画書」本体に反映していきます

# 福祉・教育・自然・自然学校



**だれが**

- ・ 地区全体
- ・ ○○振興会
- ・ グループ
- ・ 組織
- ・ 市△△課

**いつ**

- ・ 前期（1年目～3年目）
- ・ 中期（4年目～6年目）
- ・ 後期（7年目～10年目）
- ・ すぐ取り組む・絶対必要
- ・ これもできたらいい

**何をする(行動計画)**

- ・ 具体的に

わたしたちは大野の人をふやしたい(住む人・来る人)

ずっと安心 高齢者にやさしい地域 づくり	1	高齢者の安否確認（毎日旗をあげて目印に）
	2	高齢者の病院、買い物のときの乗り物（交通対策）
	3	高齢者向けの何か娯楽があったらいい
	4	高齢者クラブがボランティアで作付した野菜を必要なところにふるまい大野の野菜としてPR
	5	高齢者が日中過ごせるような場所をつくる
公民館、地区公民館、 自然学校と、地域との 結びつき	6	地区公民館の補修（塗り替え・屋根）
	7	公民館を開放して健康教室、お菓子作り、夕食づくりができるようにしたい
	8	登山客の宿泊用に垂桜公民館を有償で提供
	9	学校近くの田んぼにホタルを呼ぶ、クレソン栽培
	10	市内スポーツ大会を大野で開催しおにぎり等を提供する
	11	自然学校に来る子供たちと地元とのふれあいの機会を
	12	自然学校と地域との連携をもっと密に
	13	自然学校の職員は大野に住んでもらいたい
	14	自然学校に来た子供や学生たちの大野での発表会
	15	自然学校の校庭にナイター設備
	16	鹿児島大の学生をもっと呼んでほしい
わたしたちの高峠公園、 垂桜の景観資源を 生かす	17	料理・伝統芸能・炭焼きスクールで老若男女学ぶ
	18	郷土芸能まつり
	19	市内7つの棒踊を大野で発表・競演
	20	自然学校プールの有効活用
	21	プールで釣り堀
	22	高峠の管理を住民に任せてほしい（コスモス復活）
	23	つつじにもっと手を入れてほしい
	24	つつじとコスモスをボランティアで手入れしたい
	25	減少する観光客をくいとめる
	26	紅葉する樹の並木道
	27	計画的な開発、住民の声を反映した高峠公園づくり
	28	もっと公園らしく整備してください
	29	高峠にクヌギやユズを植えてカブトムシがとれるように
	30	桜（ソメイヨシノ）の花芽が着かないため、咲く花木を植える
	31	垂桜は山桜の名所になる、新たな憩いの場の創作を
32	埋れた観光資源を有効に活かす、景観の良いところをアピール	
33	高峠公園にグランドゴルフ場をつくり、地元で管理する	
34	輝北天球館のような観察施設の建設	
35	高隈登山や周辺のトレッキング体験	
36	四季を問わず年間を通して花見ができる、実の成る樹を植え収穫後販売する	



# 農林畜産業・農産加工



## だれが

- ・地区全体
- ・〇〇振興会
- ・グループ
- ・組織
- ・市△△課

## いつ

- ・前期（1年目～3年目）
- ・中期（4年目～6年目）
- ・後期（7年目～10年目）
- ・すぐ取り組む・絶対必要
- ・これもできたらいい

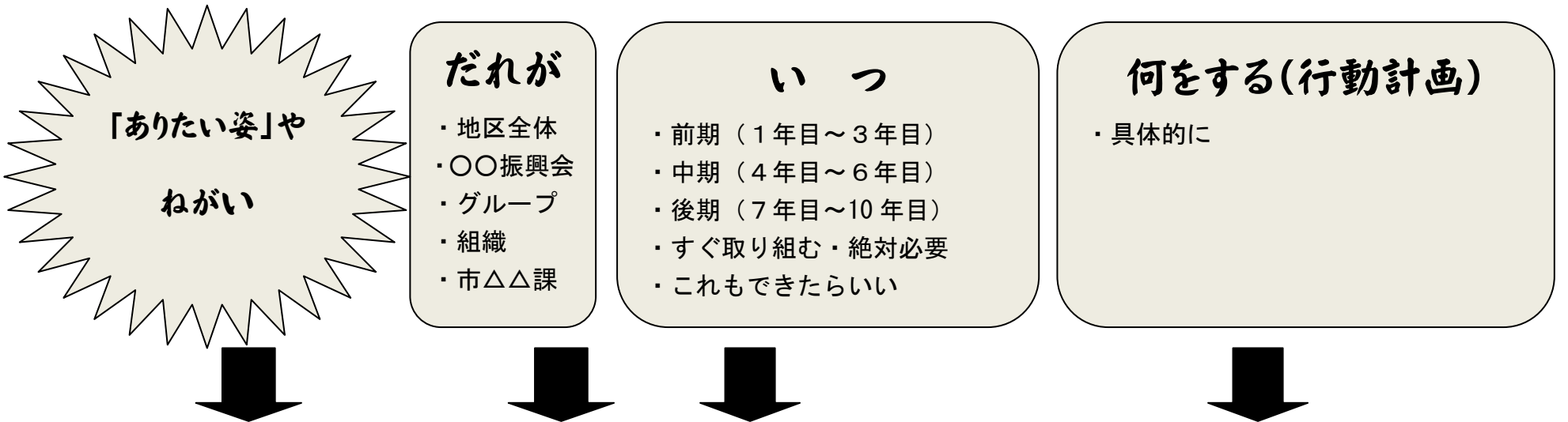
## 何をする(行動計画)

- ・具体的に

わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）

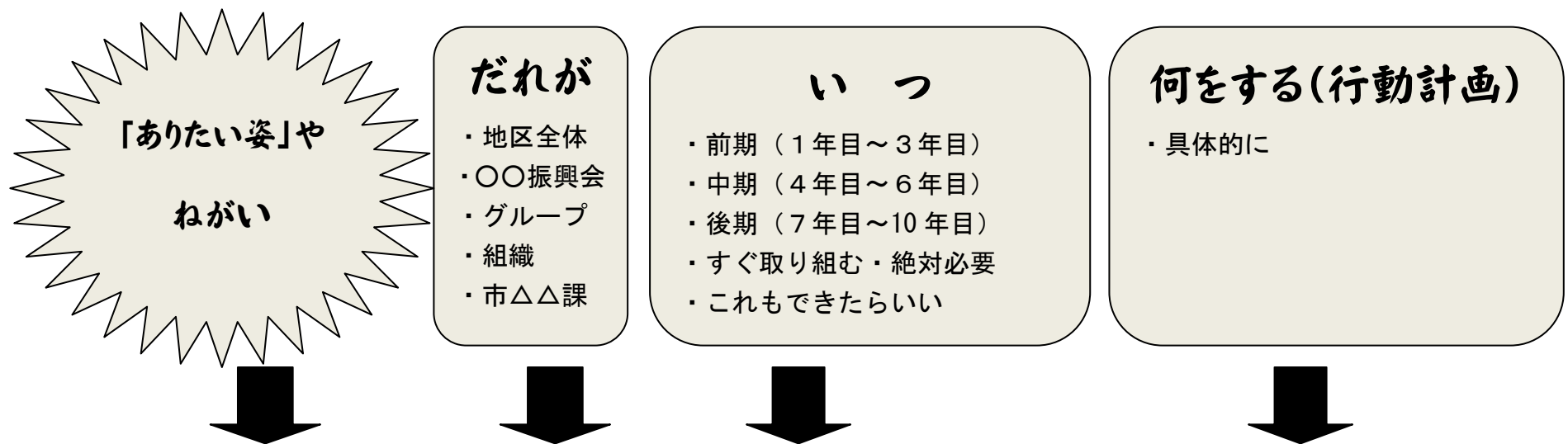
生産者も変わる	37	柱の茶業と畜産業に特色をもたせる、発想の転換、付加価値
	38	高峠で茶ハウス、茶づくり体験
	39	お茶石けん、紅茶、ウーロン茶
	40	降灰対策（茶業）補助のあり方を見直してほしい
	41	法人化・団体化など経営の見直し
わたしたちが売る！	42	インターネットを活用し大野の野菜の良さをアピール
	43	加工商品や季節商品売り込む
	44	大野に物産館をつくる
	45	軽トラ市を実施
	46	人がいる場所に出し販路拡大
	47	お茶だけでなく、地区でまとまり、大野産すべてで「大野ブランド」
	48	大野の特産品で予約注文、年末発送
	49	地元住民による物産フェア開催
	50	垂水フェリーのりばに出店する
来た人が喜ぶ体験づくり	51	枝打ち・タケノコとりなど林業体験を受け入れて山もきれいに
	52	農園オーナー制度
	53	野菜づくりに興味のある方へ畑地無料貸し出し
	54	大野原・垂桜の特性を生かし観光農園、農業体験、1坪農園で栽培体験
	55	垂桜の土地を有効活用
	56	自然学校と連携した観光農園
	57	ブルーベリー収穫体験・ジャムづくり、カラス対策
	58	子供が喜ぶことを取り組む
59	五右衛門風呂ブームにのる	
加工の取り組みもあらたな次の段階へ	60	地元焼酎販売
	61	焼き肉店
	62	加工技術の向上
	63	加工グループ運営管理を学ぶ、次のステップに進むための研修
	64	消費者の「また買いたい」をつかむ取り組み、宣伝のしかた
	65	情報を発信、リピーターを確保
	66	大野に出前講座をまねいて商品開発につなげる
	67	垂桜の天然水を利用しかき氷、飲料ペットボトルをつくる

# 住環境



わたしたちは大野の人をふやしたい（住む人・来る人）	よりよい生活環境のために		68	水道施設、水道管の整備・改修
			69	大野原急速ろ過器のろ過砂更新
			70	学校先のカーブが見通し悪い
			71	猿ヶ城から垂桜へ通ずる連絡道の整備
			72	大野原～垂桜の連絡道を拡張
			73	大野原水源地までの舗装を要望
			74	防災無線の受信機の設置
			75	道路の悪い所を補修
			76	消火栓の整備
			77	防火用水タンクの整備
	空き家などの有効活用、人を呼び取り組み		78	辺地債を活用した事業
			79	奉仕作業が人手不足
			80	奉仕作業の回数を増やす
			81	市営住宅を含む、若い人が住める住宅の整備
			82	教職員住宅の改修
			83	臭気問題の解決に向け、みんなで事業所に頼む、もっと声を大に
			84	市と大学が連携して消臭技術の確立を
			85	10年後のクリーンな地域
			86	夏の別荘に短期利用、宿泊用
			87	おためし暮らし体験
		88	空き家対策と借り手さがし	
		89	空き地・宅地・畑・山の登録や貸し出し、譲渡などを検討、地区でとりまとめ	
	90	空き家をリフォームし、低家賃での貸し出し		
	91	空き家修繕費の問題		
	92	市「空き家バンク制度」の活用		

# 両振興会臨時総会



## ○ 大野原振興会臨時総会(平成 22 年 12 月 1日)

こう ありたい	中分類	たたき台 番号	だれが	いつ	意見・要望
わたしたちは大野に人を増やしたい	高峠公園 よりよい生活環境のために	68・69			・水道施設、水道管の整備・改修 ・大野原急速ろ過器のろ過砂更新
		83・84			・臭気問題の解決に向け、みんなで 事業所に頼む、もっと声を大に ・市と大学が連携して消臭技術の確立を
		記載なし			・県道（中尾橋～田地明区間）の拡幅の早期実現
	高齢者にやさしい地域 公民館との結びつき	22 中心に			・高峠公園整備、コスモスの再生
		1			・高齢者の安否確認（毎日旗をあげて目印に）
		5			・高齢者が日中過ごせるような場所をつくる
		6		・地区公民館の補修（塗り替え・屋根）	

## ○ 垂桜振興会臨時総会(平成 22 年 12 月13日)

こう ありたい	中分類	たたき台 番号	だれが	いつ	意見・要望
わたしたちは大野に人を増やしたい	産業	臨時総会において出席者から出された 意見をもって、最重点項目とする			・6年後の肝属地区茶業振興大会に向けた垂桜の対応、 整備
					・農道（茶園周辺3本）の整備
					・降灰対策のためビニールハウス導入検討
	よりよい生活環境・景観資源 来た人が喜ぶ				・看板設置の要望／登山口までの道標、登山口、垂桜か ら垂水への分岐点
					・ローマ字の看板
					・田地明～垂桜集落への市道整備
	公民館				・登山客向けに、地域産品の販売所をつくる
					・垂桜公民館上の運動場の管理方法を改善
					・紅葉樹を生かして散歩できる公園と、駐車場の整備 ・ニッセイの森など散歩ルートづくり
			・垂桜公民館の倉庫を改修する ・公民館をみんなが「くつろげる場所」「集まる場所」に		



○「大野づくり計画」策定員名簿

役職名等	氏名
大野地区公民館長・大野地区青少年補導員	田之上 光雄
大野地区公民館主事・大野原振興会長・大野地区青少年補導員	松元 正美
大野地区体育指導員	岡山 光一
大野地区子供育成会長	原田 ひとみ
大野地区公民館監事	前田 利治
大野地区公民館監事・垂桜振興会長	迫田 均
大野地区村作り推進委員・大野消防分団長	室田 清信
大野校区婦人会長・高峠わかば会長	内田 のり子
大野婦人会長・大野地区生活改善会長	松元 みお子
垂桜婦人会長	坂元 美智子
棒踊保存会長・垂水市茶業振興会長	前田 清輝
大野地区福祉部長	前田 ひとみ
大野民生委員	宮下 康
垂桜民生委員	竹澤 サダ子
大野地区交通安全分会長	原田 勇人
大野校区畜産会長	室田 修一
大野地区高齢者クラブ会長	隈元 幸雄
大野地区高齢者クラブ副会長	内田 一巳
大野地区高齢者婦人部長	野下 ヤス子
大野地区地域安全モニター	宮下 省司
大野地区公民館別館	福島 康彦
大野地区地域担当職員	瀬脇 幸一
大野地区青年部長	宮下 直弥
大野原振興会のみなさん	
垂桜振興会のみなさん	
垂水市役所関係各課	
(事務局) 垂水市役所企画課地域政策係	

○ 策定経過

日付	話し合い等の名称	参加者数
H21/8/31	大野地区公民館運営委員会で説明を行う	19名
H21/10/16	「地域振興計画」住民説明会（垂桜振興会）	25名
H21/11/17	「地域振興計画」住民説明会（大野原振興会）	25名
H21/11/30	「地域振興計画」高齢者座談会（垂桜）	20名
H21/12/5～6	鹿大「ルネッサンスアカデミーによる地元学」（垂桜）	40名
H22/3/11	「水俣市の生活丸ごと博物館に学ぶ旅」実施	20名
H22/7/30	大野地区公民館運営委員会で説明を行う	30名
H22/8/3	事務協議（館長、主事）	4名
H22/9/29	秋の茶園管理研修会で話し合いへの参加依頼	12名
H22/11/2	両振興会の全戸へ意見募集	—
H22/11/8	「福祉・教育部門」の話し合い	16名
H22/11/16	「産業部門」の話し合い	17名
H22/11/24	「住環境部門」の話し合い	18名
H22/12/1	大野原振興会臨時総会	24名
H22/12/13	垂桜振興会臨時総会	25名
H23/1/11	地区公民館運営委員中心の話し合い	18名
H23/1/14	地区公民館運営委員中心の話し合い	17名
H23/1/21	市関係課長同席の話し合い	26名
H23/1/28	市関係課長同席の話し合い	29名
H23/2/18	計画書全体の内容を協議する話し合い	16名
H23/3/25	報告会（鹿児島大学公開講座を活用）	
H23/3/26	大野原振興会総会（報告会）	
H23/3/27	垂桜振興会総会（報告会）	

○ あとがき

「大野づくり計画」がようやく出来上りました。

最初はとんでもない計画を引受けたなと感じました。

どのような計画なのか、どのように進めたら良いのか見当もつきませんでした。

しかし、話し合いを重ねていくうちに熱心に取組むなら地域活性につながるのではないかと、そんな雰囲気になってきました。

14回の話し合いを重ねた結果、なんと100もの行動計画案が出されました。今すぐ取組むものや、10年後を目標にしたものもあります。今後取組むべき明確な目標が出来上りました。

先人達が開拓したこの村をこれからは私達が守り、さらに創り上げたいと思います。できる事から取組んでいこうと思います。

忙しい中、話し合いに積極的に参加された運営委員の方々、市役所関係各課の皆様に心から御礼申し上げます。

大野地区公民館長